

土砂災害から生命を守る

様式2



いわき建設事務所河川砂防課
小松副主査 宮入副主査(神奈川県)

いわき地域における土砂災害警戒区域指定の取り組み

1. はじめに

いわき市は、浜通りの南部に位置し、茨城県と境を接するまちで、東は太平洋に面しているため、寒暖の差が比較的少なく、温暖な気候に恵まれた地域です。

市の面積は広大で、常磐道から西側は阿武隈高地の山間部、東側も丘陵地が多く、丘陵地と丘陵地の間に市街地を形成しています。

市内には、**1,628箇所**の土砂災害危険箇所があり、県内の**18.7%**(急傾斜地崩壊危険箇所は**25.5%**)を占めています。

2. 経緯など

土砂災害は毎年のように全国・県内各地で発生しており、私たちの暮らしに大きな被害を与えています。

近年では、平成26年8月20日に発生した広島県広島市の土砂災害により、**74名**の尊い命が失われました。

一方では、新たな宅地開発に伴い、土砂災害の発生するおそれのある危険な箇所も増加し続けています。

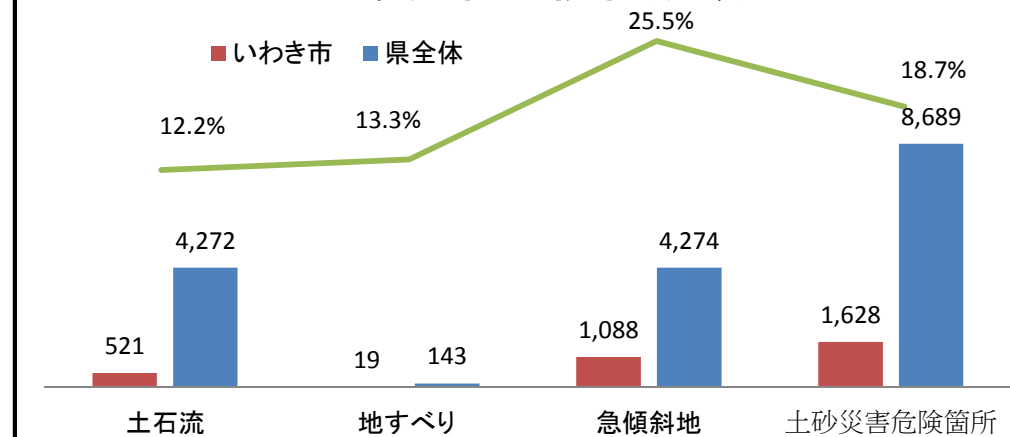
しかしながら、全ての危険箇所を対策工事により安全な状態にしていくには、膨大な時間と費用が必要です。

これらの現状から、土砂災害から生命を守るため、

- ・土砂災害のおそれのある区域について危険周知
- ・警戒避難体制の整備
- ・住宅等の新規立地抑制等

のソフト対策を充実させることを目的とした『土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律(通称 土砂災害防止法)』が施行されました。

土砂災害危険箇所数



<平成26年8月20日に発生した広島市の土砂災害>



3. いわき市のいま

いわき市の現状は以下のとおりです。

- ・東日本大震災の地震活動・津波により、**約4万戸**が全半壊。
- ・大震災時は、**300件**を越す土砂災害が発生。
- ・双葉郡の住民を中心に約2万人以上が市内に避難。
- ・震災前には**約1,700戸/年**だった住宅着工数が、**約3,500戸/年**(約2倍)と大幅に増加。
- ・台風や豪雨等により、**30件/年以上**の土砂災害
- ・豪雨の増加(H25. 4. 7には、いわき市観測史上最大**87mm/h**を記録)

4. 取組み状況

土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域等は、『基礎調査による区域図の作成』、『住民への説明会実施』、『いわき市の同意』を経て指定されます。

より多くの方に土砂災害防止法の趣旨及び警戒区域等を知ってもらうため、説明会にあたっては、

- ・地元代表者への事前説明
- ・土地所有者及び区域住民への開催周知
- ・参加しやすい平日夕方、土曜日、日曜日に開催
- ・いわき市との協働開催

を実施しています。

現在、説明会は**約60箇所/年**実施し、H26末で**約570箇所(予定)**の区域指定を目標としています。

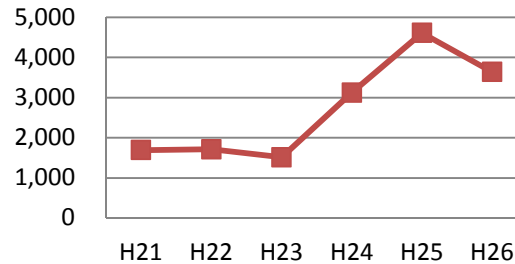
5. おわりに

・近年、豪雨の増加に伴い、土砂災害が増加しており、多く人が犠牲となっています。

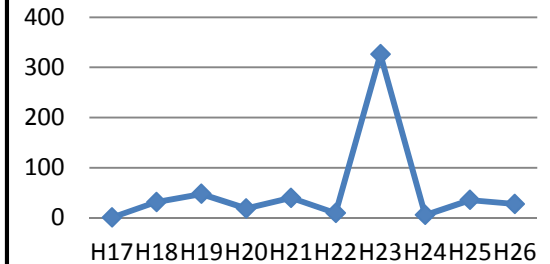
・土砂災害から一人でも多くのいのちを守るためには、行政の「知らせる努力」と住民の「知る努力」が相乗的に働くことが重要です。

・そのためにも、基礎調査の早期実施と区域指定が必要となります。

新設住宅着工戸数



土砂災害発生件数



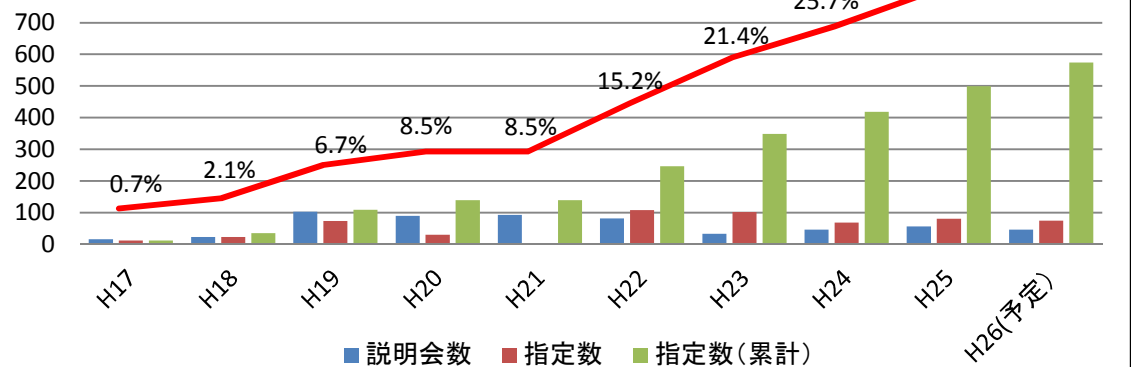
説明会の実施状況



H26.4.4に発生したいわき市内の土砂災害



土砂災害警戒区域等の指定数



* いわき管内の危険箇所数: 1,628箇所